Ε

【問 15】 あなたは COPD (シー・オー・ピー・ディー) という病気を知っていますか。

**1.** どんな病気かよく知っている **2.** 名前は聞いたことがある **3.** 知らない

## 【問 16】 あなたの飲酒行動についておうかがいします。

1) 現在、ビールコップ 1 杯程度の少量の飲酒で、すぐ顔が赤くなる体質が、ありますか?

1. あ る 2. な い 3. わからない

2) 飲酒を始めた頃の 1~2 年間は、ビールコップ 1 杯程度の少量飲酒で、すぐ顔が赤くなる体質が ありましたか?

**1.** あった **2.** なかった

3. わからない

3) あなたは今までに、飲酒を減らさなければいけないと思ったことがありますか。

**1.** あった **2.** なかった **3.** 飲めない・飲まない

4) あなたは今までに、飲酒を批判されて腹が立ったり、いらだったりしたことがありますか。

**1.** あった

**2.** なかった **3.** 飲めない・飲まない

5) あなたは今までに、飲酒に後ろめたい気持ちや罪悪感を持ったことがありますか。

**1.** あった

**2.** なかった **3.** 飲めない・飲まない

6) あなたは今までに、朝酒や迎え酒を飲んだことがありますか。

7) お酒をどのくらいの頻度で飲みますか。

1. 飲まない

2. 毎日飲む

**3.** 週に5~6日

4. 週に3~4日

5. 週に1~2日

6. 月に1~3日

7. 月に1日未満

8) お酒を飲む日は、1日にどのくらい飲みますか。

(日本酒1合=ビール中ビン1本=ウイスキーシングル2杯と考えてください)

**1.** 1 合未満

**2.** 1合~2合未満 **3.** 2合~3合未満

4. 3 合~ 4 合未満

**5.** 4合~5合未満 **6.** 5合以上

## 【問 17】 最近のからだの調子についておうかがいします。

1) 風邪をひいていないのにたんがからむことがありますか。—

**1.** あ る

2. ない

**2)** 喘鳴(ぜいぜい、ヒューヒュー) がよくありますか。—

**1.** あ る

2. ない

**3)** 今現在(もしくは今まで)アレルギーの症状はありますか。-

**1.** あ る

2. ない

|     | 4. 一人暮らし、あるいは家族と別室で寝るため、わからない                                |
|-----|--|
| []  | 引18】 喫煙行動についておうかがいします。                                       |
| 1)  | 過去 1 ヶ月間に自分以外の人が吸っていたタバコの煙を吸う機会(受動喫煙)がありましたか。                |
|     | 1. ほぼ毎日 2. 週に数回程度 3. 週に1回程度 4. 月に1回程度 5. 全くなかった              |
| 2)  | あなたの周りで禁煙が不十分だと思われる場所がありますか? あてはまるものに <u>すべてに</u> 〇を付けてください。 |
|     | 1. 飲食店 2. 路 上 3. 娯楽施設 4. バス停                                 |
|     | 5. JR・私鉄の駅 6. 旅館・ホテル 7. 自 宅 8. 職 場                           |
|     | 9. 会合、集会の場 10. その他 ( )                                       |
| 3)  | 不特定、または多数の人が出入りする施設での受動喫煙を防止するためのルールを定めることに<br>ついてどう思いますか。   |
|     | <b>1.</b> 賛 成 <b>2.</b> どちらかといえば賛成 <b>3.</b> どちらかといえば反対      |
|     | 4. 反 対 5. わからない  |
| 4)  | あなたは、喫煙していた、または、現在も喫煙していますか。                                 |
|     | 1. 喫煙していた、または、現在も喫煙している    2. 生涯喫煙したことはない                    |
| - \ |  |
| 5)  | 1日に何本くらいタバコを吸いますか。 これで終わりです。 これで終わりがす。 本 ごねれまりがとう            |
|     | 「Wっ Cいましたか」  |
| e ) | 何歳から何歳までタバコを吸っていますか (吸っていましたか)                               |
| 0)  | 回風がら回風などダバコを吸っていなりが、(吸っていなしたが)                               |
|     |  |
|     | ↑※現在も喫煙している場合は、現在の年齢を記入してください                                |
|     |  |
| 7)  | ご自身のタバコの煙が周囲の人に与える影響を気にしていますか。 1. は い 2. いいえ                 |
| 8)  | 周囲に <u>非</u> 喫煙者がいる際、タバコを吸うことを控えますか。                         |
|     | これで調査票は終了です。長時間にわたりご協力ありがとうございました。                           |

**2.** ときどき **3.** 全くかかなかった

4) この3ヶ月間に、いびきをかきましたか。

**1.** ほとんど毎日

## IV. 研究成果の刊行に関する一覧

#### [書籍]

1. Bönecker M, Pordeus I, Peres M, Aida J: Epidemiology of oral health problems and trends. In: Promoting the Oral Health of Children Theory & Practice. 2nd edn. Edited by Sheiham A, Moysés S, Watt R, Bönecker M: QUINTESSENCE; 2014.

#### [論文]

- 1. Yamamoto T, Kondo K, Aida J, Suzuki K, Misawa J, Nakade M, Fuchida S, Hirata Y, group J: Social determinants of denture/bridge use: Japan gerontological evaluation study project cross-sectional study in older Japanese. BMC oral health 2014, 14:63.
- 2. Yamamoto T, Kondo K, Aida J, Fuchida S, Hirata Y, group J: Association between the longest job and oral health: Japan Gerontological Evaluation Study project cross-sectional study. BMC oral health 2014, 14(1):130.
- 3. Tsuboya T, Aida J, Kawachi I, Katase K, Osaka K: Early life-course socioeconomic position, adult work-related factors and oral health disparities: cross-sectional analysis of the J-SHINE study. BMJ Open 2014, 4:e005701.
- 4. Takeuchi K, Aida J, Ito K, Furuta M, Yamashita Y, Osaka K: Nutritional Status and Dysphagia Risk among Community-Dwelling Frail Older Adults. The journal of nutrition, health & aging 2014, 18(4):352-357.
- 5. Sato Y, Aida J, Takeuchi K, Ito K, Koyama S, Kakizaki M, Sato M, Osaka K, Tsuji I: Impact of Loss of Removable Dentures on Oral Health after the Great East Japan Earthquake: A Retrospective Cohort Study. Journal of prosthodontics: official journal of the American College of Prosthodontists 2014.
- 6. Rouxel PL, Heilmann A, Aida J, Tsakos G, Watt RG: Social capital: theory, evidence, and implications for oral health. Community Dent Oral Epidemiol 2014.
- 7. Murakami K, Aida J, Ohkubo T, Hashimoto H: Income-related inequalities in preventive and curative dental care use among working-age Japanese adults in urban areas: a cross-sectional study. BMC oral health 2014, 14(1):117.
- 8. Matsuyama Y, Aida J, Takeuchi K, Tsakos G, Watt RG, Kondo K, Osaka K: Inequalities of dental prosthesis use under universal healthcare insurance. Community Dent Oral Epidemiol 2014, 42(2):122-128.
- 9. Koyama S, Aida J, Kawachi I, Kondo N, Subramanian SV, Ito K, Kobashi G, Masuno K, Kondo K, Osaka K: Social Support Improves Mental Health among the Victims Relocated to Temporary Housing following the Great East Japan Earthquake and Tsunami. The Tohoku journal of experimental medicine 2014, 234(3):241-247.
- 10. Kanamori S, Kai Y, Aida J, Kondo K, Kawachi I, Hirai H, Shirai K, Ishikawa Y, Suzuki K, Group J: Social Participation and the Prevention of Functional Disability in Older Japanese: The JAGES Cohort Study. PLoS One 2014, 9(6):e99638.
- 11. 安本 恵, 相田 潤, 滝波 修, 森田 康, 本多 丘: バングラデシュにおける子供の口腔疾患と 社会行動的リスク要因. 北海道歯学雑誌 2014, 34(2):77-86.

#### [総説]

1. 相田 潤, 近藤 克則: 【健康格差とソーシャル・キャピタルの『見える化』】 ソーシャル・キ

- ャピタルと健康格差. 医療と社会 2014, 24(1):57-74.
- 2. 相田 潤: 公的データの活用による県内市町村の地域診断 宮城県の市町村における健康格差の評価. 宮城県公衆衛生学会会誌 2014(46):22-24.
- 3. Sheiham A, 相田 潤: 21 世紀の口腔保健戦略 日本における齲蝕減少の理由. 歯界展望 2014, 124(2):370-374.

#### [学会発表]

- 1. J. Aida, K. Kondo, T. Yamamoto, S. Masashige, K. Ito, K. Suzuki, I. Kawachi, K. Osaka. Does social capital explain rural-urban inequalities in edentulousness?. 93rd General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research. March 12, 2015, Boston, US.
- 2. Y. Matsuyama, J. Aida, K. Kondo, I. Kawachi, H. Hikichi, K. Osaka. Economic Difficulty and Tooth Loss after Catastrophic Disaster in Japan. March 12, 2015. 93rd General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research. Boston, US.
- 3. Y. Sato, J. Aida, K. Kondo, T. Tsuboya, K. Osaka: Dental Status and IADL Disability; the JAGES Panel Cohort Study. March 14, 2015. 93rd General Session & Exhibition of the International Association for Dental Research. Boston, US.
- 4. J. Aida. Oral health inequalities in japan; research and policy challenges. 2014 annual meeting of Korean Academy of Oral Health. 2014年10月31日. Yongpyong. Korea
- 5. J. Aida. Oral health inequalities in japan; research and policy challenges. Korean Academy of Dental Insurance. 2014年11月1日. Seoul. Korea
- 6. 引地 博, 近藤 尚, 相田 潤, 近藤 克. 憩いのサロン参加による要介護リスクの抑制 愛知県 武豊町における 5 年間の介入研究. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2014;73 回:225.
- 7. 吉江 佑, 相田 潤, 松山 祐, 伊藤 奏, 小山 史, 長谷 晃, 三浦 宏, 小坂 健. 研修歯科医師の歯科訪問診療の実施意向と基本的知識の関連. 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2014;33 回:160.
- 8. 山本 龍, 近藤 克, 相田 潤, 渕田 慎, 平田 幸. 高齢者における最長職と口腔健康状態および歯科保健行動との関係 JAGES プロジェクト. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):164.
- 9. 山本 龍, 近藤 克, 相田 潤, 渕田 慎, 平田 幸. 高齢者における最長職と口腔健康状態・歯科 保健行動との関係 日本老年学的評価研究(JAGES)プロジェクト. 神奈川歯学 2014;49(抄録 集):52.
- 10. 小山 史, 相田 潤, 長谷 晃, 松山 祐, 伊藤 奏, 三浦 宏, 小坂 健. 出身大学によって幼児 への歯磨剤の使用の推奨は異なるのか. 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄 録集 2014;33 回:132.
- 11. 小山 史, 長谷 晃, 伊藤 奏, 松山 祐, 坪谷 透, 相田 潤, 三浦 宏, 小坂 健. 歯学部におけるキャリア教育の実態調査. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):214.
- 12. 小嶋 雅, 尾島 俊, 相田 潤, 斎藤 民, 近藤 尚, 近藤 克. 地域高齢者の飲酒習慣と健康指標、 社会的背景との関連 JAGES プロジェクト. 日本公衆衛生学会総会抄録集 2014;73 回:216.
- 13. 松山 祐, 相田 潤, 山本 龍, 坪谷 透, 伊藤 奏, 小山 史, 長谷 晃, 近藤 克, 小坂 健. 日本人高齢者における、補綴物使用格差 全国 30 自治体の地域比較. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):217.
- 14. 清宮 利, 相田 潤, 松山 祐, 田浦 勝, 小林 清,境 脩, 小布施町役場教育部門子ども教育グループ. 長野県 N 市におけるフッ化物洗口週 5 回法と S 市におけるフッ化物洗口週 1 回法の効果の比較について. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):227.
- 15. 相田 潤. 「これからの健康科学」 産業保健におけるダイバーシティ・マネジメントストラテジー 健康の社会的決定要因から考えるダイバーシティ・マネジメントストラテジー. 産業衛生 学雑誌 2014;56(臨増):231.
- 16. 相田 潤. 3.11・復興の中で考える障害者歯科医療の未来 災害後の障害者歯科ニーズの解消を 目指して. 障害者歯科 2014;35(3):218.
- 17. 相田 潤, 近藤 克, 山本 龍, 伊藤 奏, 小坂 健. 地域のソーシャル・キャピタルと高齢者の無

- 歯顎の関連. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):162.
- 18. 長谷 晃, 相田 潤, 伊藤 奏, 小山 史, 松山 祐, 三浦 宏, 小坂 健. 全国の研修歯科医のう 触予防とフッ化物応用の知識の普及について. 日本歯科医学教育学会総会・学術大会プログラム・抄録集 2014;33 回:106.
- 19. 尾島 俊, 宮國 康, 岡田 栄, 仲村 秀, 中村 美, 近藤 尚, 斉藤 雅, 相田 潤, 近藤 克. 介 護予防のための公営の住まいに関する研究 JAGES プロジェクト. 日本公衆衛生学会総会抄録 集 2014;73 回:224.
- 20. 尾島 俊, 竹田 徳, 平井 寛, 田淵 貴, 小嶋 雅, 斉藤 雅, 近藤 尚, 相田 潤, 仲村 秀, 岡田 栄, 中村 美, 近藤 克, JAGES グループ. 喫煙による認知症のリスク JAGES コホートプロジェクト. 日本循環器病予防学会誌 2014;49(2):169.
- 21. 鈴木 優, 相田 潤, 坪谷 透, 伊藤 奏, 小山 史, 長谷 晃, 松山 祐, 三浦 宏, 小坂 健. 歯 科医師の職場復帰に関連する要因 女性歯科医師が職場復帰しやすい環境を目指して. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):169.
- 22. 渕田 慎,山本 龍,相田 潤,近藤 克,平田 幸.全国市区町村の担当者が効果的と考える成人歯科保健事業の有無に関連する要因. 口腔衛生学会雑誌 2014;64(2):248

# V. 研究成果の刊行物·別刷

(一部のみ抜粋)

#### **BMC Oral Health**



This Provisional PDF corresponds to the article as it appeared upon acceptance. Fully formatted PDF and full text (HTML) versions will be made available soon.

## Individual- and community-level social gradients of edentulousness

BMC Oral Health (2015) 15:34

doi:10.1186/s12903-015-0020-z

Kanade Ito (kanade-i@umin.ac.jp)
Jun Aida (aidajun@m.tohoku.ac.jp)
Tatsuo Yamamoto (yamamoto.tatsuo@kdu.ac.jp)
Rika Otsuka (rika-o@cam.hi-ho.ne.jp)
Miyo Nakade (nakade-m@tokaigakuen-u.ac.jp)
Kayo Suzuki (ksuzuki@psis.agu.ac.jp)
Katsunori Kondo (kkondo@chiba-u.jp)
Ken Osaka (osaka@m.tohoku.ac.jp)

Published online: 11 March 2015

**ISSN** 1472-6831

**Article type** Research article

Submission date 12 December 2014

**Acceptance date** 20 February 2015

Article URL <a href="http://dx.doi.org/10.1186/s12903-015-0020-z">http://dx.doi.org/10.1186/s12903-015-0020-z</a>

Like all articles in BMC journals, this peer-reviewed article can be downloaded, printed and distributed freely for any purposes (see copyright notice below).

Articles in BMC journals are listed in PubMed and archived at PubMed Central.

For information about publishing your research in BMC journals or any BioMed Central journal, go to <a href="http://www.biomedcentral.com/info/authors/">http://www.biomedcentral.com/info/authors/</a>

# Individual- and community-level social gradients of edentulousness

Kanade Ito<sup>1,2,\*</sup>

\* Corresponding author

Email: kanade-i@umin.ac.jp

Jun Aida<sup>1</sup>

Email: aidajun@m.tohoku.ac.jp

Tatsuo Yamamoto<sup>3</sup>

Email: yamamoto.tatsuo@kdu.ac.jp

Rika Otsuka<sup>4</sup>

Email: rika-o@cam.hi-ho.ne.jp

Miyo Nakade<sup>5</sup>

Email: nakade-m@tokaigakuen-u.ac.jp

Kayo Suzuki<sup>6,7</sup>

Email: ksuzuki@psis.agu.ac.jp

Katsunori Kondo<sup>6,8</sup>

Email: kkondo@chiba-u.jp

Ken Osaka<sup>1</sup>

Email: osaka@m.tohoku.ac.jp

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> Department of International and Community Oral Health, Tohoku University Graduate School of Dentistry, Sendai City, Miyagi, Japan

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> Division of Oral Health Sciences, Department of Health Sciences, School of Health and Social Services, Saitama Prefectural University, Koshigaya City, Saitama, Japan

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> Department of Dental Sociology, Graduate School of Dentistry, Kanagawa Dental University, Yokosuka City, Kanagawa, Japan

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> Research Team for Human Care, Tokyo Metropolitan Institute of Gerontology, Itabashi Ward, Tokyo, Japan

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> Department of Nutrition, Faculty of Health and Nutrition, Tokaigakuen University, Nagoya City, Aichi, JAPAN

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> Center for Well-being and Society, Nihon Fukushi University, Nagoya City, Aichi, Japan

<sup>&</sup>lt;sup>7</sup> Department of Policy Studies, Aichi Gakuin University, Nisshin City, Aichi, Japan

<sup>8</sup> Center for Preventive Medical Sciences, Chiba University, Chiba City, Chiba, Japan

## **Abstract**

## **Background**

Community-level factors as well as individual-level factors affect individual health. To date, no studies have examined the association between community-level social gradient and edentulousness. The aim of this study was to investigate individual- and community-level social inequalities in edentulousness and to determine any explanatory factors in this association.

#### Methods

We analyzed the data from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES). In 2010–2012, 112,123 subjects aged 65 or older responded to the questionnaire survey (response rate = 66.3%). Multilevel logistic regression analysis was applied to determine the association between community-level income and edentulousness after accounting for individual-level income and demographic covariates. Then, we estimated the probability of edentulousness by individual- and community-level incomes after adjusted for covariates.

#### Results

Of 79,563 valid participants, the prevalence of edentulousness among 39,550 men (49.7%) and 40,013 women (50.3%) were both 13.8%. Living in communities with higher mean incomes and having higher individual-level incomes were significantly associated with a lower risk of edentulousness (odds ratios [ORs] by 10,000 USD increments were 0.37 (95% confidence interval [CI] [0.22-0.63]) for community-level and 0.85 (95% CI [0.84-0.86]) for individual-level income). Individual- and community-level social factors, including density of dental clinics, partially explained the social gradients. However, in the fully adjusted model, both community- and individual-level social gradients of edentulousness remained significant (ORs = 0.43 (95% CI [0.27-0.67]) and 0.90 (95% CI [0.88-0.91]), respectively). One standard deviation changes in community- and individual-level incomes were associated with 0.78 and 0.84 times lower odds of edentulousness, respectively. In addition, compared to men, women living in communities with higher average incomes had a significantly lower risk of edentulousness (p-value for interaction < 0.001).

#### **Conclusions**

Individual- and community-level social inequalities in dental health were observed. Public health policies should account for social determinants of oral health when reducing oral health inequalities.

# **Keywords**

Dental public health, Edentulous/edentulism, Income inequality, Gender differences, Multilevel analysis

# **Background**

Severe tooth loss is the 36th most prevalent condition among 291 diseases and it caused a loss of 106 disability-adjusted life-years per 100,000 population [1]. Prevalence of severe tooth loss increases with age. Approximately 20% of the older population experienced severe tooth loss [2]. Severe tooth loss causes chewing difficulties and poor nutritional status [3]. It also affects general health status. For example, tooth loss predicts the onset of future comorbidities such as dementia [4] and mortality [5].

Recent studies showed that the prevalence of severe tooth loss differed by socioeconomic group [6-8]. These health inequalities are caused by social determinants of health and can be observed on social gradients [9]. Adverse social conditions such as lower income and lower educational attainment affect the health of not only the most disadvantaged people, but also the entire population within a society [10,11]. The differences in social conditions create a stepwise gradient of health conditions between social groups [12,13]. The total loss of teeth (i.e., edentulousness) reflects the social determinants of an individual's life-course, as it is the result of oral health behavior, oral diseases, and the community health care system [14]. Reducing oral health inequalities is an urgent matter for both researchers and policymakers [15-17]. Furthermore, determining the factors that affect oral health inequalities is important for future public health interventions.

Recent studies have demonstrated that not only individual factors, but also community-level social determinants such as income inequalities or community-level mean income affect the health of individuals and facilitate health inequalities [7,8,18]. Because community factors potentially affect the health of all residents in an area, it is important to understand their effects on health. However, to the best of our knowledge, no study has examined both the individual- and community-level social gradients of edentulousness. Thus, the aims of the present study were: 1) to investigate the association between individual- and community-level incomes and edentulousness, 2) to determine the explanatory factors for edentulousness inequalities, and 3) to investigate gender differences within the socioeconomic inequalities of edentulousness.

## **Methods**

#### **Data collection**

We used cross-sectional data from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES) cohort study in Japan. The JAGES project is an ongoing prospective cohort study investigating social and behavioral factors associated with the loss of health related to functional decline or cognitive impairment among individuals aged 65 years or older [6,19,20]. Between August 2010 and January 2012, a total of 169,215 community-dwelling people aged 65 years and older were randomly selected from 31 municipalities in 12 prefectures in Japan and mailed a set of questionnaires. In total, 112,123 people in 31 municipalities participated (response rate = 66.3%). We used data from 79,563 participants without missing responses.

#### Outcome variable

The outcome variable for the present analysis was edentulousness (i.e., edentulous or dentulous). Current dental status was measured by a self-administered questionnaire.

Respondents were asked "What is the status of your dental health?" with four choices: 1) I have 20 or more natural teeth, 2) I have 10 to 19 natural teeth, 3) I have 1 to 9 natural teeth, or 4) I have no natural teeth. We categorized answers 1–3 as "dentulous" and answer 4 as "edentulous."

#### Main predictors

We used two income variables as the main predictors. The individual-level equivalent household income was obtained and calculated from the questionnaire. The community-level mean income was obtained from national census data [21]. Both income variables were used as continuous variables and the unit used was 10,000 USD (1 USD = 100 JPY).

### Individual-level socio-demographic covariates

Sex, age (65–69, 70–74, 75–79, 80–84 and >84 years old), marital status (currently married, widowed, divorced, never married, and other), and educational attainment (years of school education received (<6, 6–9, 10–12, >12 years, and other)) were used as individual-level socio-demographic covariates. Marital status [22-24] and educational attainment [25,26] were associated with general and oral health status. In addition, both variables in this study were associated with income level. Therefore we included these variables as covariates.

## Community-level socio-demographic covariate

Density of dental clinics is a proxy for access to dental care in communities. A previous study in Japan indicated that density of dental clinics was an appropriate proxy for access to care [27]. Dental status is associated with access to dental care [27]. Density of dental clinics is likely to be higher in urban areas than rural areas [28]. Generally, urban areas are richer than rural areas [29]. Thus, we used density of dental clinics as a covariate of community-level income in this analysis. Density of dental clinics in each municipality in 2010 were obtained from the census data and used as the community-level variable [30].

#### Data analysis

In our dataset, 79,563 individuals (individual-level) were nested across 30 municipalities (community-level). We have hypothesized that oral health is affected not only by individuallevel socioeconomic status but also by community-level social conditions. To examine the contextual effect of community-level income on edentulousness, we applied a 2-level multilevel logistic regression analysis with random intercepts and fixed slopes. To determine explanatory factors in the association between individual- and community-level incomes and edentulousness, we built the models as follows. Model 1 tested the association between individual-and community-level incomes and edentulousness. Model 2 tested the association between income variables and edentulousness after adjusting for age, sex, and marital status. Model 3 added educational attainment into Model 2. Model 4 was the fully adjusted model, adding the community-level variable (density of dental clinics) into Model 3. To determine gender differences in the effect of both individual- and community-level incomes on dental health, interaction terms were included in the fully adjusted model. To evaluate the degrees of individual- and community-level variances in edentulousness, median odds ratios (ORs) were calculated [31]. To compare the degrees of the association between individual- and community-level income variables and edentulousness, we constructed a fully adjusted model with standardized income variables. When non-standardized income variables were included into the models, they were grand mean centered. Analysis were conducted using MLwiN version 2.28 (Centre for Multilevel Modelling, University of Bristol, UK).

#### **Ethical considerations**

Ethical approval for the study was obtained from the Ethics Committee at Nihon Fukushi University, Japan (Approval number: 10–05).

## Results

The average ages of 39,550 men (49.7%) and 40,013 women (50.3%) were 73.5 (SD = 5.97) and 73.7 (SD = 6.17) years old, respectively. The prevalence of edentulousness was 13.8% for both men and women. Table 1 shows the demographic distribution of the variables by dental status. Edentulous individuals had significantly lower incomes and lived in communities with lower mean incomes (p < 0.001).

Table 1 The demographic distribution of variables by dental status (n = 79,563)

| Categorical variables                                  |               | Dentulousness      | Edentulousness | p-value                |
|--|---------------|--------------------|----------------|------------------------|
|  |               | n (%)              | n (%)          |                        |
| Sex  | Male          | 34,083 (86.2)      | 5,467 (13.8)   | 0.798 <sup>†</sup>     |
|  | Female        | 34,507 (86.2)      | 5,506 (13.8)   |                        |
| Age  | 65-69ys       | 23,239 (94.6)      | 1,327 (5.4)    | $p < 0.001^{\dagger}$  |
|  | 70-74ys       | 21,560 (90.3)      | 2,314 (9.7)    | -                      |
|  | 75-79ys       | 14,212 (83.2)      | 2,877 (16.8)   |                        |
|  | 80-84ys       | 6,899 (72.8)       | 2.573 (27.2)   |                        |
|  | >84ys         | 2,680 (58.7)       | 1,882 (41.3)   |                        |
| Marital status   | Married       | 52,769 (88.1)      | 7,115 (11.9)   | $p < 0.001^{\dagger}$  |
|  | Widowed       | 12,185 (78.6)      | 3,311 (21.4)   |                        |
|  | Divorced      | 2,007 (86.7)       | 307 (13.3)     |                        |
|  | Never married | 1,316 (88.4)       | 173 (11.6)     |                        |
|  | Other         | 313 (82.4)         | 67 (17.6)      |                        |
| Educational attainment                                 | <6ys          | 1,120 (61.70       | 694 (38.3)     | $p < 0.001^{\dagger}$  |
|  | 6-9ys         | 27,979 (82.7)      | 5,853 (17.3)   |                        |
|  | 10-12ys       | 25,428 (89.4)      | 3,023 (10.6)   |                        |
|  | >12ys         | 13,650 (91.3)      | 1,299 (8.7)    |                        |
|  | Other         | 413 (79.9)         | 104 (20.1)     |                        |
| Continuous variables                                   |               | Mean (SE)          |                |                        |
| Density of dental clinics (per 10 thousand population) |               | 4.45 (±0.837)      | 4.31 (±0.699)  | $p < 0.001^{\ddagger}$ |
| Individual income (10 thousand US dollars*)            |               | 2.39 (±1.553)      | 1.95 (±1.467)  | $p < 0.001^{\ddagger}$ |
| Community income (10 thousand dollars*)                |               | $3.18 (\pm 0.297)$ | 3.09 (±0.285)  | $p < 0.001^{\ddagger}$ |

<sup>†</sup> p-value for chi-squared test.

Table 2 shows the results of the multivariate multilevel analysis. In the intercept-only model (not shown), there was a significant difference in edentulousness between municipalities (community-level variance:  $\Omega \gamma = 0.262$ , SE = 0.069). The median OR in the model was 1.629, which indicated that if a person moved to another municipality with a higher probability of poor dental status, their median risk of edentulousness would increase 1.629 times.

<sup>&</sup>lt;sup>‡</sup> p-value for *t*-test.

<sup>\*1</sup> US Dollar = 100 Japanese Yen.

Table 2 Association of edentulousness with individual- and community-level variables determined by multilevel logistic regression (n = 79,563)

|  | Model 1<br>OR (95%CI) | Model 2<br>OR (95%CI) | Model 3<br>OR (95%CI) | Model 4<br>OR (95%CI) | Model 5<br>OR (95%CI) | Model 6<br>OR (95%CI) |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
|  |                       |                       |                       |                       |                       |                       |
| Fixed effect   |                       |                       |                       |                       |                       |                       |
| Individual-variables                                   |                       |                       |                       |                       |                       |                       |
| Individual income (10 thousand US dollars)             | 0.85 (0.84-0.86)      | 0.87 (0.86-0.88)      | 0.90 (0.88-0.91)      | 0.90 (0.88-0.91)      | 0.90 (0.88-0.92)      | 0.90 (0.88-0.91)      |
| Educational attainment (ref:>12ys)                     |                       |                       | 1.00                  | 1.00                  | 1.00                  | 1.00                  |
| <6ys   |                       |                       | 2.19 (1.94-2.47)      | 2.19 (1.94-2.47)      | 2.19 (1.94-2.47)      | 2.19 (1.93-2.48)      |
| 6-9ys  |                       |                       | 1.61 (1.50-1.73)      | 1.61 (1.51-1.73)      | 1.62 (1.51-1.73)      | 1.62 (1.51-1.73)      |
| 10-12ys  |                       |                       | 1.15 (1.07-1.24)      | 1.15 (1.07-1.24)      | 1.16 (1.08-1.24)      | 1.16 (1.08-1.25)      |
| Other  |                       |                       | 1.79 (1.41-2.28)      | 1.80 (1.42-2.28)      | 1.80 (1.42-2.28)      | 1.80 (1.42-2.29)      |
| Community-variables                                    |                       |                       |                       |                       |                       |                       |
| Community income (10 thousand US dollars)              | 0.37 (0.22-0.63)      | 0.39 (0.25-0.61)      | 0.41 (0.27-0.63)      | 0.43 (0.27-0.67)      | 0.43 (0.27-0.67)      | 0.53 (0.33-0.85)      |
| Density of dental clinics (per 10 thousand population) |                       |                       |                       | 0.96 (0.78-1.19)      | 0.96 (0.78-1.19)      | 0.96 (0.78-1.18)      |
| Interaction term (Sex*Individual income)               |                       |                       |                       |                       | 0.98 (0.95-1.02)      |                       |
| Interaction term (Sex*Community income)                |                       |                       |                       |                       |                       | 0.63 (0.54-0.73)      |
| Random effects (SE)                                    | 0.148 (0.039)         | 0.105 (0.028)         | 0.095 (0.026)         | 0.095 (0.026)         | 0.095 (0.026)         | 0.095 (0.026)         |
| Median OR  | 1.443                 | 1.362                 | 1.342                 | 1.342                 | 1.342                 | 1.342                 |

Model 1: Adjusted for individual- and community-level incomes.

Model 2: Model 1 + age, sex, and marital status.

Model 3: Model 2 + educational attainment.

Model 4 (full model): Model 3 + community-variable (density of dental clinics).

Model 5,6: Model 4 + each interaction term.
\*1 US Dollar = 100 Japanese Yen.

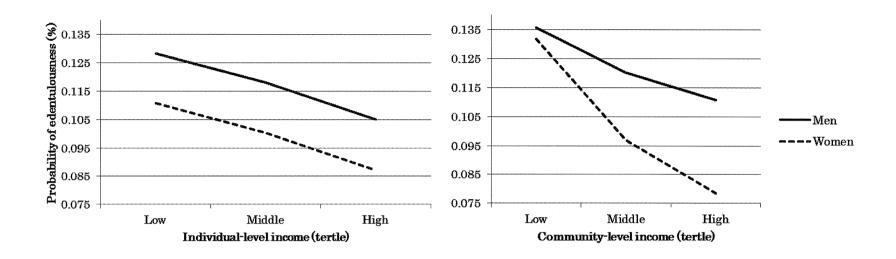


Figure. Gender difference in the association between individual- and community- level incomes and probability of edentulousness (N=78,405).

Univariate analyses showed that both individual- and community-level incomes were associated with lower risk for edentulousness; ORs of individual- and community-level incomes were 0.84 (95% confidential interval [CI] [0.84-0.86]) and 0.33 (95% CI [0.19-0.60]), respectively. Then, we included both income variables into the same model. Having a 10,000 USD higher income and living in a community with a 10,000 USD higher mean income were associated with 0.85 times and 0.37 times lower risk for edentulousness, respectively (Model 1). Individual characteristics mediated these relationships by 13.5% (individual-level income) and 3.4% (community-level income), respectively (Model 2, calculated from the ORs [32]). Educational attainment further attenuated the ORs of individual- and community-level income variables by 20.5% and 3.8%, respectively (Model 3). The community-level covariate, density of dental clinics, only mediated the association between community-level income and edentulousness (2.1% reduction of the OR, Model 4). Even after considering all covariates, there remained significant geographical differences and individual- and community-level social gradients for edentulousness (Model 4). When standardized income variables were included in Model 4 instead of non-standardized income variables, ORs for individual- and community-level income variables were 0.84 (95% CI [0.82–0.87]) and 0.78 (95% CI [0.68–0.89]), respectively. There was a significant interaction between gender and community-level income, although the interaction between gender and individual-level income was non-significant (Models 5 and 6). Compared to men, women living in areas with higher community-level incomes had a lower probability of edentulousness (Figure 1). For individual-level income, similar social gradients were observed among both men and women (Figure 1).

Figure 1 Gender difference in the association between individual- and community-level incomes and probability of edentulousness. Compared to men, women living in areas with higher community-level incomes had a lower probability of edentulousness.

## **Discussion**

To the best of our knowledge, this study was the first to examine both the individual-and community-level social gradients of edentulousness using a multilevel analysis. This large-scale multilevel analysis demonstrated that not only individual-level income but also community-level income showed social gradients for edentulousness. Present study also investigated the factors which associated between income inequalities and dental status. Individual socioeconomic characteristic partially mediated the association between both individual- and community-level incomes and edentulousness. The community's sociodemographic characteristic also partially mediated the association between community-level income and edentulousness. However, even after adjusting for all covariates, individual- and community-level social gradients remained. In addition, compared to men, women living in municipalities with higher community-level incomes derived greater oral health benefits from the social environment.

The present study reports similar result to previous studies using non-oral health outcomes, which have suggested that community-level social factors affect population health [18]. Those systematic review and meta-analysis showed that poor community-level socioeconomic environment increased resident mortality [18]. A meta-analysis of 11 studies with smaller sample sizes indicated that living in areas with low socioeconomic status increased mortality 1.11 times compared to areas with high socioeconomic status [18]. Another meta-analysis of seven studies with larger sample sizes also demonstrated that living in low socioeconomic status areas increased mortality 1.07 times [18]. In oral health studies,

regardless of individual-level income, adults living in affluent areas had a higher number of remaining teeth than those living in deprived areas, after adjusting for age, sex, and educational attainment [8]. Dental health is considered to be affected to a greater extent by community-level factors. Previous studies conducted in one Japanese prefecture reported larger geographical differences in the dental outcome of number of remaining teeth compared to self-rated health [7]. Therefore, a public health intervention considering community-level social determinants would be more effective.

There are at least three possible pathways between community-level income and oral health. First, access to dental care could explain the mechanism. Second, individual health behaviors are formed by the surrounding environment. Third, people living in affluent communities are less likely to have psychosocial stress than those living in deprived communities. In relation to the first pathway, although we considered access to dental clinics in the models, there might be unexplained variance of the outcome associated with access to dental care. A previous study demonstrated that low-income individuals had less access to dental clinics than high-income individuals [33]. Moreover, access to dental clinics was significantly associated with area-level income after adjusting individual income [28]. This study suggested that people living in affluent areas were more likely to visit a dental clinic than those in deprived areas, regardless of individual socioeconomic status. Although the variable we used, density of dental clinics, could change throughout the life-course of each respondent, we could not consider possible changes in this variable. Therefore, this might have caused the unexplained variance of the outcome, which was associated with access to dental care. For the second pathway, compared to deprived communities, affluent communities tend to have positive social environments, including sufficient grocery stores with fresh and healthy food, public safety, and good access to hospitals and dental clinics [34,35]. People living in affluent communities tend to eat more fruits and sugar-free foods because they can easily purchase healthy foods at grocery stores in their communities [36,37]. In addition, people living in affluent communities are also more likely to drink healthy beverages, such as non-sugared teas rather than sodas [38]. Sugar is an established risk of dental caries [39]. Moreover, recent study also indicated that sugar associated with risk of periodontal diseases [40]. Healthy lifestyles can help prevent them. For the third pathway, people living in affluent communities are less likely to have psychosocial stress because of increased safety, good social capital (e.g., social connections and social networks), and social norms than those living in deprived communities [41]. Psychosocial stress is also associated with smoking status, which affects periodontal diseases causing tooth loss [42]. In addition, community public safety affects oral health by reducing the possibility of dental injuries. Dental injury was affected by community social environment [43].

Present study showed that community explanatory variable partially mediated the association between community-level income and edentulousness. To examine the possibility of the pathway "access to dental care", we include the variable into the model. However, variable on access to dental care explained only 2.1% of the association between community-level income and edentulousness. Further studies that consider the wider range of variables related to the pathway, such as social capital and geographical clustering of dental health behaviors, are needed.

In the present study, women's dental health was affected by community-level income to a greater extent than men's health. Previous studies on other health outcomes have reported similar results. Compared to men, the self-rated health of women is considered to be affected to a greater extent by the neighborhood social environment [44]. Another study on self-rated health reported similar findings and the authors suggested that this might be because women

tend to spend more time at home and in the community [45]. Thus, women were more likely than men to communicate with neighbors. Therefore, women's health behaviors are more likely to be affected by neighbors though informal social control and social influence. A previous study in Japan demonstrated that, for older women, the distance to a dental clinic was an important factor for dental attendance, while distance was not significantly associated with access to dental care among older men [27]. Because many older women in Japan do not have a driver's license, public transportation is considered an important factor for dental clinic access [27].

## **Public health implications**

Community factors are important because they potentially affect the health of all residents in a given area. The present study revealed the importance of community-level socioeconomic status on oral health. Therefore, interventions should focus not only on individual efforts but also consider community-level social determinants underlying the oral health of a population. Therefore, after relevant factors are determined by future studies, *upstream* approaches including structural and environmental interventions for improving various social determinants of communities (e.g., smoking policies for public spaces, food policies for reducing sugar consumption, health care system reforms for improving access to preventive and curative care, and access to fluoride in the water system or in schools) are necessary for reducing oral health inequalities [46-48]. In addition to these *upstream* approaches, building society which focuses on not only economic growth, but also fair distribution of well-being of individuals are required [34]. As various socioeconomic environment of community affect health of residents, broader social and economic policies should consider health and well-being of residents [34].

## Limitation and strengths

This study has some limitations. First, this was a cross-sectional study; thus, we cannot rule out the possibility of reverse causation. Consequently, prospective follow-up studies are required. Second, although the validity of self-reporting number of remaining teeth was validated, measurements were obtained from a self-administered questionnaire [49]. However, if we can obtain clinical measurements of remaining teeth, which are more accurate than self-administered questionnaires, the association between income variables and edentulousness will be strengthened. Third, there might have a potential bias because of a lack of many cases. The main strength of this study was its large sample size. In addition, our survey was conducted across an adequate number of municipalities with various characteristics and we used appropriate statistical analysis. Therefore, the present study could legitimately describe the effects of community factors.

## **Conclusion**

In conclusion, community-level income, as well as individual-level income, formed social gradients for edentulousness, even after accounting for individual- and community-level factors. The oral health of women living in municipalities with higher community-level incomes benefited from the social environment.

# Availability of supporting data

Raw data is available from corresponding author.

## Standards of reporting

This study was prepared according to STROBE check list for cross-sectional studies.

#### **Consent**

Present study was an observational study and not using human biological specimens. We explained all relevant details regarding the study to be carried out and provide each prospective subject an opportunity to refuse inclusion in the research. Subject who consented to participate in the study wrote the self-reported questionnaire and send it by mail.

## **Abbreviations**

JAGES, Japan Gerontological Evaluation Study; OR, Odds ratio; CI, Confidence interval

# **Competing interests**

The authors declare that they have no competing interests.

## **Authors' contributions**

KI participated in the acquired the data and the study design, performed the statistical analysis, and drafted the manuscript as the principal author. JA helped to develop the idea of the study, participated in the acquired the data, advised the statistical analysis, and edited the manuscript. TY participated in the acquired the data and the study design, and edited the manuscript. RO and MN participated in the acquired the data and reviewed the manuscript. KS helped to edit the manuscript, participated in its design, and advised the statistical analysis. KK is the principal investigator of the JAGES project, helped to develop the idea of the study, participated in the acquired the data and the study design, and edited the manuscript. KO participated in the acquired the data, helped with data analysis, and critically revised the manuscript. All authors read and approved the final manuscript.

# Acknowledgments

This study used data obtained from the Japan Gerontological Evaluation Study (JAGES), conducted by the Nihon Fukushi University Center for Well-Being and Society as one of their research projects. This study was supported in part by Grants-in-Aid for Scientific Research (A) (KAKENHI 23243070), (B) (22390400 and 24390469), and (C) (22592327) from the Japan Society for the Promotion of Science. The study was also supported by a Health and Labour Sciences Research Grant, and grants for Comprehensive Research on Aging and Health (H24-Choju-Wakate-009) and Comprehensive Research on Lifestyle-Related Diseases including Cardiovascular Diseases and Diabetes Mellitus (H24-Junkanki [Seishu]-Ippan-007) from the Ministry of Health, Labour and Welfare (MHLW), Japan. The sponsors of the study had no role in the study design, data collection, data analysis, data interpretation, or writing of the paper.

## References

- 1. Marcenes W, Kassebaum NJ, Bernabe E, Flaxman A, Naghavi M, Lopez A, et al. Global burden of oral conditions in 1990–2010: a systematic analysis. J Dent Res. 2013;92(7):592–7.
- 2. Kassebaum NJ, Bernabe E, Dahiya M, Bhandari B, Murray CJ, Marcenes W. Global Burden of Severe Periodontitis in 1990–2010: A Systematic Review and Meta-regression. J Dent Res. 2014;93(11):1045–53.
- 3. Sheiham A, Steele JG, Marcenes W, Lowe C, Finch S, Bates CJ, et al. The relationship among dental status, nutrient intake, and nutritional status in older people. J Dent Res. 2001;80(2):408–13.
- 4. Yamamoto T, Kondo K, Hirai H, Nakade M, Aida J, Hirata Y. Association between self-reported dental health status and onset of dementia: a 4-year prospective cohort study of older Japanese adults from the Aichi Gerontological Evaluation Study (AGES) Project. Psychosom Med. 2012;74(3):241–8.
- 5. Aida J, Kondo K, Yamamoto T, Hirai H, Nakade M, Osaka K, et al. Oral health and cancer, cardiovascular, and respiratory mortality of Japanese. J Dent Res. 2011;90(9):1129–35.
- 6. Matsuyama Y, Aida J, Takeuchi K, Tsakos G, Watt RG, Kondo K, et al. Inequalities of dental prosthesis use under universal healthcare insurance. Community Dent Oral Epidemiol. 2013;42(2):122–8.
- 7. Aida J, Kondo K, Kondo N, Watt RG, Sheiham A, Tsakos G. Income inequality, social capital and self-rated health and dental status in older Japanese. Soc Sci Med. 2011;73(10):1561–8.
- 8. Sanders AE, Turrell G, Slade GD. Affluent neighborhoods reduce excess risk of tooth loss among the poor. J Dent Res. 2008;87(10):969–73.
- 9. Watt RG, Sheiham A. Integrating the common risk factor approach into a social determinants framework. Community Dent Oral Epidemiol. 2012;40(4):289–96.
- 10. Kawachi I, Kennedy BP. Income inequality and health: pathways and mechanisms. Health Serv Res. 1999;34(1 Pt 2):215–27.
- 11. Coogan PE, Wise LA, Cozier YC, Palmer JR, Rosenberg L. Lifecourse educational status in relation to weight gain in African American women. Ethn Dis. 2012;22(2):198–206.
- 12. Brennan SL, Holloway KL, Williams LJ, Kotowicz MA, Bucki-Smith G, Moloney DJ, et al. The social gradient of fractures at any skeletal site in men and women: data from the Geelong Osteoporosis Study Fracture Grid. Osteoporos Int. 2015. doi:10.1007/s00198-014-3004-y.
- 13. Nguyen AB, Moser R, Chou WY. Race and health profiles in the United States: an examination of the social gradient through the 2009 CHIS adult survey. Public Health. 2014;128(12):1076–86.

- 14. Astrom AN, Ekback G, Lie SA, Ordell S. Life-course social influences on tooth loss and oral attitudes among older people: evidence from a prospective cohort study. Eur J Oral Sci. 2015;123(1):30–8.
- 15. Sgan-Cohen HD, Evans RW, Whelton H, Villena RS, MacDougall M, Williams DM. IADR Global Oral Health Inequalities Research Agenda (IADR-GOHIRA(R)): a call to action. J Dent Res. 2013;92(3):209–11.
- 16. Williams DM. Global oral health inequalities: the research agenda. J Dent Res. 2011;90(5):549–51.
- 17. Marmot M, Friel S, Bell R, Houweling TA, Taylor S. Closing the gap in a generation: health equity through action on the social determinants of health. Lancet. 2008;372(9650):1661–9.
- 18. Meijer M, Rohl J, Bloomfield K, Grittner U. Do neighborhoods affect individual mortality? A systematic review and meta-analysis of multilevel studies. Soc Sci Med. 2012;74(8):1204–12.
- 19. Takeuchi K, Aida J, Kondo K, Osaka K. Social participation and dental health status among older Japanese adults: a population-based cross-sectional study. PLoS One. 2013;8(4):e61741.
- 20. Yamamoto T, Kondo K, Aida J, Fuchida S, Hirata Y. Association between the longest job and oral health: Japan Gerontological Evaluation Study project cross-sectional study. BMC Oral Health. 2014;14:130.
- 21. Ministry of Internal Affairs and Communications. Status Survey of Tax on Municipalities. The System of Social and Demographic Statistics of Japan, Basic data of Shi, Ku, Machi, Mura by Statistics Bureau, Ministry of Internal Affairs and Communications. 2010.
- 22. Fukuda Y, Hiyoshi A. Associations of household expenditure and marital status with cardiovascular risk factors in Japanese adults: analysis of nationally representative surveys. J Epidemiol. 2013;23(1):21–7.
- 23. Evans TG. Socioeconomic consequences of blinding onchocerciasis in west Africa. Bull World Health Organ. 1995;73(4):495–506.
- 24. Wennstrom A, Ahlqwist M, Stenman U, Bjorkelund C, Hakeberg M. Trends in tooth loss in relation to socio-economic status among Swedish women, aged 38 and 50 years: repeated cross-sectional surveys 1968–2004. BMC Oral Health. 2013;13:63.
- 25. Natto ZS, Aladmawy M, Alasqah M, Papas A. Factors contributing to tooth loss among the elderly: A cross sectional study. Singapore Dent J. 2014;35:17–22.
- 26. Sabbah W, Tsakos G, Chandola T, Sheiham A, Watt RG. Social gradients in oral and general health. J Dent Res. 2007;86(10):992–6.
- 27. Hanibuchi T, Aida J, Nakade M, Hirai H, Kondo K. Geographical accessibility to dental care in the Japanese elderly. Community Dent Health. 2011;28(2):128–35.